

令和5年度第7回 常議員会資料

日時 令和5年11月14日(火) 午後1時30分
場所 黒石商工会議所 会頭室

黒石商工会議所

令和5年度スローガン

『 ともに語らい

さあ前進 』

次 第

1. 開 会

2. 会 頭 挨 拶

3. 議 案 審 議

議案第1号 黒石市への要望事項（案）策定について

議案第2号 国道102号を跨ぐ横断看板（沖浦地区・鉄製アーチ）の撤去について

4. 報 告 事 項

①青年部・女性会活動について

5. そ の 他

黒石市長

高 樋 憲 様

令和6年度

黒石市に対する要望事項

黒石商工会議所

令和 6 年度黒石市に対する要望

【最重点要望事項】

1. 黒石市制度融資保証料の増額について（継続・一部変更） 金融委員会

黒石市制度融資は当該保証料を一定額、市が負担し中小企業者の資金繰りや経費負担の軽減に寄与しています。

小口資金特別保証制度、事業活性化資金特別保証制度の保証料給付は例年上半期で予算に達し今年度も 8 月末で予算に達しています。下半期には制度を利用したくても保証料給付を受けられずに借入を行う中小企業者が見受けられます。また、次年度は小口資金特別保証制度と事業活性化資金特別保証制度が一本化になると聞いております。

制度自体の融資枠が予算に達していない場合でも、市が負担する保証料給付については例年比較的早く予算に達しているため、制度を利用する中小企業者が保証料給付を受けられるよう融資枠相当額の保証料給付を要望します。

【重点要望事項】

◆「商工業振興」

1. 黒石市の経済対策について①（新規） 生活文化商業部会

原油価格や物価高騰の影響を受けている市内事業者及び市民の負担を軽減していただくため、「くろいしマッコカATALOG事業」のような経済対策の継続を要望いたします。また、事業が効率よく効果を発揮できるように、市内事業者及び市民からの意見をとりいれていただくよう要望します。

例 1：市内事業者⇒黒石商店街協同組合との意見交換

例 2：市民⇒「意見・アイデア等の募集」市民から事業に対する意見・アイデア等について、手紙・はがき・FAX・E メールなどで随時受け付ける手法。特定のテーマについて、広報誌やホームページ等を通じて意見やアイデアを募集する場合や、庁舎内に目安箱のようなものを設置するような手法を含む。

※神奈川県川崎市「主な市民参加手法一覧」（自治基本条例第 28 条関係）参照

黒石市の経済対策について②

黒石市の入札制度においては、予算内で市内事業者を中心に継続して実施されているものと認識している。「新型コロナウイルス感染症」による行動制限も解除になり、景気も回復傾向の兆しが見えてきているが、未だ厳しい経営環境にある市内事業者が多く見受けられる。

今後の地域活性維持のためにも、可能な限り市内事業者を優先する制度の実施を要望します。

2. 提案・参加型の補助金事業の創設について（新規）

食品商業部会

新型コロナウイルス、原油・物価高騰、円安の影響で事業者の経営環境が悪化し、黒石市からも何度も支援をいただいていたところですが、今後は新たな攻めの方策を事業者が自ら考えていく必要があります。

つきましては、事業者や市民が自ら考え提案したものに関して、黒石市が補助をしていただく制度を創設していただきますよう要望します。

① 市内中小企業者の新商品、新役務の開発等の新事業活動に対する補助事業について ※黒石市産品販売力強化補助対象の拡充

新商品開発費だけでなく新サービス開発費も補助対象にしていきたい。

※青森県の経営革新計画の認定を受けた事業への補助の実施

県、市、支援機関が連携することで、新事業に取り組む事業所の存在が確認でき、新事業の計画や実行に関し複数の機関でバックアップするため事業効果が高まる。

② 地域の課題解決や活性化に資する活動に対する事業について

黒石市民が身近な地域の課題を解決するために行う事業を公募、審査し補助をお願いしたい。

弘前市では「市民参加型1%事業システム」という事業があり、約12年間で約600件以上の申請実績となっている。多くの市民が関わり課題解決に繋がっている。

まちづくり、福祉、教育、文化、健康づくり、地域コミュニティ、防災、通学路の除雪等の課題解決について、市民が自ら考えて解決に繋がる仕組みを創設していきたい。

◆「都市環境」

3. 大鰐浪岡線の交通渋滞解消と黒石環状線の整備促進について（継続）

産経委員会

大鰐浪岡線は、大鰐町を起点とし、平川市・黒石市を經由して青森市と結ぶ重要路線である。近年、沿道の商業集積や通過交通の流入などによる交通量増加に伴い、慢性的に交通渋滞となっている。

この交通渋滞を解消するため、更なる拡幅工事と本路線東側バイパス路線を含む黒石環状線（都市計画3・4・7 巾16m 延長7,170m）の整備促進を図ることを引き続き要望します。

※神奈川県川崎市「主な市民参加手法一覧」（自治基本条例第 28 条関係）

参加手法	内容
アンケート	原則的には無作為抽出によって市民の意向、ニーズ、満足度などを調査する手法。計画策定に先立ち予備調査として行う場合や、世論調査のように定期的に調査する場合などがある。市民は与えられた設問に対して回答することになるが、自由解答欄に意見を述べることもできる。
グループインタビュー	特定の市民や市民グループに対して聞き取り調査を行う手法。行政が趣旨説明を行った上で市民に回答してもらえるため、アンケートでは把握困難な意見やアイデアを聴取しやすい。
市政モニター	行政からの参加呼びかけに応じて希望した市民がモニターとして登録する手法。一定期間学習や調査活動を行いその検討成果を行政に報告するもの。
意見・アイデア等の募集	市民から、市政に対する意見・アイデア等について、手紙、はがき、FAX、Eメールなどで随時受け付ける手法。特定のテーマについて、広報誌やホームページ等を通じて意見やアイデアを募集する場合や、庁舎内に目安箱のようなものを設置するような手法を含む。
公聴会・住民説明会	公聴会は、法律上開催を義務付けられた公式的な意見聴衆の場である。一方、住民説明会は、行政が市民に対し事業決定前に考え方を説明し、市民の意見を聴取する場であり、タウンミーティングなどもこの一例である。
シンポジウム・フォーラム	比較的幅広いテーマについて公開の場で討論や意見交換を行う多数参加型のイベント。企画段階から運営まで市民と行政が共同で事務局を担う実行委員会方式で行われる場合もある。
オープンハウス	パネルの展示やリーフレット等資料の配布により、事業や進め方に関する情報を提供する場を設ける手法。職員と1対1で対話できるため、大勢の前で発言することが苦手な市民等の参加を促進することができる。
地域別懇談会	市長や関係課長などが地域に向き、座談会形式で住民と意見交換する手法。「市長と語る会」のような名称で、地区ごとに定期的に開催されるケースが多い。行政からの情報提供の機会として用いられることもある。
ワークショップ	目標や課題を設定し、学習しながら取組む参加体験型プログラム。KJ法、タウンウォッチ、ロールプレイなどが取り入れられることが多い。
市民会議	地域的公共的課題の解決に向けて、行政と協力・連携して、市民が主体的・継続的に活動を行う中間的な組織または場の総称。名称は「市民〇〇会議」「〇〇市民委員会」「〇〇協議会」など多様。
パブリック・インボルブメント	公募市民を中心とした市民会議が、条例や計画等の策定段階から参加すると同時に、メンバーみずから条例や計画等の内容や策定経緯を一般市民に説明し、市民の意見を聞き市民との対話を重ねながら最終的に市民の総意として策定する手法。
市民討議会	住民台帳などから無作為に抽出された市民に参加依頼状を送り、そのうち参加を承諾した市民が、十分な情報提供を受けながら市民同士で議論を重ね、短期間（概ね1日から2日程度）で合意形成をし、提言を作成する手法。
討論型世論調査	まず、無作為抽出により世論調査を行い、次に、回答した市民に対し、討議イベントへの参加を呼びかけ、参加希望者に対して行政が事前に情報提供を行った上で、討議イベントを実施する手法。討議イベント当日には市民同士の十分な討議、専門家への質問等を行い、その結果として熟慮された世論調査結果を得ることができる（最初の世論調査結果・討議イベント開始前の参加者の意向調査、そして討議イベント終了後の参加者の意向調査の三者を比較し、意見の変化をみる）。
その他	上記以外の手法により、市民の声を市政へ反映すること等を目的として、参加の機会を市民へ提供しているもの。

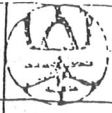
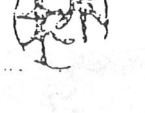
議案第2号 国道102号を跨ぐ横断看板(沖浦地区・鉄製アーチ)の撤去について

横断看板は、資料の通り浅瀬石川ダム工事の施工者（熊谷組等共同企業体）が記念事業として建設寄贈され、建設された交通安全アーチは交通安全・市観光事業の広告塔として6団体の利用権者の基に利活用されてきた。

市側より3年毎の道路使用申請に当たり状態確認した結果、老朽化（添付写真）が進み維持管理が厳しい状況となったことから撤去の提案があった。全ての利用権者より撤去同意があり、撤去費用については「交通安全アーチ管理要領」により按分することになっている。撤去及び費用負担について応じてよいか伺います。



19年前

昭和58年11月18日起案		決裁年月日		備考	
昭和 年 月 日施行		会長		署長	
		専務理事		次長	
文書番号	第 号	事務局長		課長	

(件名)

門型交通安全塔

の寄付採納について

浅瀬石川ダム工事を施行している

(株)熊谷組 (株)竹中土木 共同企業体

浅瀬石川ダム工事所

(所長 鶴巻末八)

工事関係者のゲートに使用 鉄塔

より、ダム工事に関連する国道102号線の一部新設道路の開通記念事業としてこれおでの地域住民の協力に感謝の意を表するため、門型交通安全塔ノ基(一部観覧用も含む)を寄贈する旨申し出がございましたので警察署をはじめ関係機関団体とも協議した結果交通安全観覧としても効果的で

黒石地区交通安全協会

るとの意見でありましたので、下記の通り寄付
採納してよろしいかあ伺いします。

することとします。

記

1. 寄贈物件

門型交通安全広告塔 / 基

(構造広告内容は別添図面の通り)

2. 設置場所

* 所、又はは設置に付する

黒石市大字二庄大字巻の沢の206地先

新国道102号線 路上

* 道路横断する建造物→二層と許可はとれない

3. 寄贈者

(株) 熊谷組 (株) 竹中土木 共同企業体

浅瀬石川ダム工事所 (所長 鶴巻末八)

4. 寄付採納者 (代表)

黒石地区交通安全協会 (会長 中村淳治)

5. 道路使用及び屋外広告許可申請者 (代表)

黒石地区交通安全協会 会長 中村淳治

* 現在も継続中 H14.11.30 申請時期

黒石地区交通安全協会

6 寄付物件利用権者 6. 団体

(1) 交通安全用 (表面) --- 弘前を起点に 対面

。黒石警察署

ナニワ湖へ出る

。黒石地区交通安全協会

。黒石市交通安全協会

(2) 観光PR用 (裏面) --- 弘前を起点に 背面

。黒石市

黒石市街地へ入る

。黒石商工会議所

。黒石観光協会

とする。

7 維持管理等

(1) 道路使用、屋外広告許可料金。無料

(交通安全用で警察署名が入っているため)

(2) 将来 搭が破損 または 塗装替えを必要と

する場合は、利用権者が協議し、その負担額

を定める。 ※第7項目に基つき 管理委員会にて 決定

8 更新手続等

道路使用の許可年限は 3年、屋外広告

黒石地区交通安全協会

の許可年限は1年となっているので、その
更新手続は、黒石地区交通安全協会事務局
が申請するものとする。

以上

黒石地区交通安全協会

御 見 積 書

黒石市長 高樋 憲 様

副社長	総 務	部 長	担当者
			

令和 5 年 10 月 2 日

下記のとおり御見積申し上げます。

見積価格 : ￥ 1,650,000.- (消費税含)
(うち、消費税 ￥ 150,000.-)

工 事 番 号 :

工 事 名 : 国道102号沖浦地区道路横断看板解体撤去工事

工 事 場 所 :

履 行 期 限 :

工 事 内 容 : 道路横断看板及び基礎の解体・撤去・処分

見 積 条 件 : 急激な物価の変動により見積金額が変わる場合があります。

支 払 い 方 法 :

見積有効期限 : 見積日より3ヶ月

※見積書記載以外は別途精算となります。

〒036-0405
青森県黒石市大字南中野字才ノ神42番地6



代表取締役社長 桜庭 仁

TEL 0172-54-8550 FAX 0172-54-8439

e-mail office@sakuraba-kensetsu.co.jp

参考資料 「人口減少問題・子育て支援に関するご意見」

・(尙)新岡材木店 新岡常雄会頭より

人口流出は避けられず、黒石市へのＵターンを促すため企業誘致を推し進め、就業環境の整備を図ること。また、子育て世代の支援に必要な医療環境の充実を図る。

・(株)エクシェリール 桑田副会頭より

人口減少問題は、会議所にとっても会員事業所の維持・活性化のためにも大きな問題である。若年層や子育て世代への市独自の支援強化は急務であり、官民挙げての検討会議等の設置を望む。

・(株)黒石日産自動車商会 中村公成常議員より

自治体の支援策で、愛媛県松山市の⑤「休日子どもカレッジ」、岐阜県大垣市の③「新築住宅の利子補給金の助成」、香川県の①「イクケン香川」たまご育て事業、東京都板橋区の①「子どもなんでも相談窓口」②「育児支援ヘルパーを活用した子育て支援」、秋田県の③「県内就職者に対する奨学金返還助成制度」、兵庫県明石市の「所得無制限の支援」が良いと感じた。

蓄えがない若年層への支援にお金をかけ、地域に若者を定着させることが必須だと感じている。数年後には倍以上の衰退が予想される。

・(株)マルサ佐藤製作所 佐藤洵一常議員より

行政の取り組みは子育て補助金と人的支援が主な取り組みである。行政とすればやはりこれらの取り組みが柱にならざるを得ない。静岡は人的支援、明石は金銭支援が柱となっている。商工会議所の要望はほとんど行っていない。このようなデータを見るとときに、対比する黒石市の取り組みが記載されていないため比較検討が難しいと感じた。

若い人が魅力を感じて黒石に定着する、あるいは他の地域から移り住むには何が必要なのかは難しい課題だが、商工会議所とすれば商業や工業の分野で若い人が黒石に集まる方策がメインだと思われる。短期的に行政が出来ることはあまりないのではと 感じている。

中心商店街が活気ある状態が若い人が集まるのか、旧ストゼン活用が少し明るい話題と思われるが、ほとんどの商店が廃業を考えているのではないかと推察する。先日の行政からのこみせ整備計画が出されましたが、お店のシャッターが下りていればなんの魅力も感じられない。東京品川の中延商店街、隣の戸越商店街の衰退も目に見えるようになってきている。高齢化したこれらの地域では日常の消費品(食料品、医薬品等)は良いのですが、衣料品をはじめバック、装飾品などのお店は姿を消しつつある。それらの商品は、渋谷、新宿などの若い人が密集する地域とネット購入が主力になっている事を、中延商店街の人たちの話で感じている。もう、商店街の衰退は全国的に大きな流れになっているのは周知のことである。

市がこみせを整備することには異議はないが、その後ろに控える商店の活性化を今までの発想と違う形で起こさないと、こみせの整備が無駄になりそうである。人口増は結局、地域経済が密接に関連いくため、市と会議所と膝を突き合わせて現状の問題と将来の問題を真剣に考えるべきと感じる。

市への子育て要望は前回の常議員会議で承認しているため、今回調査した内容を添付し提出してはどうか。

・(株)西谷造花店 西谷孝雄常議員より

要望に関しては、事例にある明石市をメインに協議を重ねていただきたい。

所得額に関係なく適用されること、黒石市市民が中心で定住されている家族、生活保護・外国人は除くなど、黒石市に住んでいる人を中心に働く世代に手厚い支援があれば良いのではないかと。

・青森県信用組合黒石支店 飯田大貴監事より

黒石市においては子育て支援の充実も人口減少対策としては必要と考えますが、それ以前に人口流出の一番の原因として収入面、また職種面で魅力的な職場が少ないことにありと考える。

以下、商工会議所から市に対しての要望として正しいのか微妙ではあるが、個人的な意見とする。

【黒石市の働く場】

黒石管内での有効求人倍率が県内最下位である。



【黒石市の働く場の問題点】

- ・正社員での求人において業種に偏りがある。※所得に対して労働環境が悪いとされる介護・保育・運送関連が多い。
- ・市内企業の給与所得が低い。



より良い働く場を求めて弘前市または県外へ就職や転職。



【結果】

- ・弘前市や弘前市に近い平川市をはじめとする近隣市町村へ移住。
- ・県外へ進学、就職した若者が返ってこない。

【要望について】

- ・大手企業の誘致
- ・新築住宅建設の補助金設立 ※六戸町「定住促進新築住宅建設補助金」参照

その他、社内で意見交換したところ、「産科があってほしい」、「大型商業施設があれば住みたくなる」といった意見があった。

・匿名希望

子育て社会における問題解決のための検討委員会の立ち上げを要望してはどうか。今現在子育てに従事している方や、教育関係者、医療関係者などを委員とし、安心して子どもを産み、育てやすい環境づくりのため、現在改善が必要とされている問題などに関する多様な意見を集約した上で、議論・検討した方がよい。子育てが終わった年代の方が議論するより、現在子育て中または関係者の視点でのリアルな意見を求めた方が、本来求めているものとズレが生じてはいけない。

・匿名希望

他県商工会議所の成功事例を見ても成功している事例であり、黒石市が積極的に取り込めるかは疑問である。商工会議所としても要望は行っていないのが多数である。

結論から言うと要望するのではなく、検証や意見をしていく第三者機関としての役割を担うのはどうだろう。

黒石市も少なからず子育て支援は行っているのだから、その支援が有効に活用され、人口減少問題に歯止めをかけられているのかを検証することが大事ではないか。

授業料無償化や医療費免除を実施していくことに誰も異論はないはずだが、人口減少問題の原因が本当にそれなのか、上記制度の拡充で黒石市に住み、子供を産み、育てていこうとする若い世代が増加するのかは疑問である。

黒石市としても検証し改善はしているのだろうが、何を検証し、どのような理由で改善をするのかを公表する義務があるのではないか。

黒石市が本気で取り組むとは、そこまで具体化しなければ大改革はできないのではないだろうか。

報告事項①

各部会・委員会、青年部・女性会活動報告について

(令和5年9月23日～令和5年10月31日)

①青森県連YEG第3回役員会・第2回臨時総会

開催日時 令和5年9月23日(土)午後1時30分

開催場所 八戸プラザホテル

出席者 村上慈人・瓜田健太郎・佐川武士・村上照幸

議案審議 案件(1) 第2回臨時総会審議案件について

案件(2) 令和6年度日本YEG出向役員について

案件(3) 令和6年度東北ブロックYEG出向役員について

案件(4) 第16回青森県連会員大会青森大会について

②黒石商工会議所青年部第7回役員会

開催日時 令和5年10月3日(火)午後7時00分

開催場所 黒石商工会議所「会頭室」

出席者 村上慈人・齊藤工・佐々木辰徳・松村定世・瓜田健太郎・加藤さおり・
高橋晃司・三上修平・佐川武士・村上照幸・事務局

内 容 案件(1) 令和6年度会長について

高橋造園代表 高橋晃司 を選任した。

案件(2) 令和5年度第1回臨時総会について

日時・場所・会費について承認可決。

案件(3) 令和5年度10月定例会について

日時・場所・講師・予算について承認可決。

講師：日本政策金融公庫弘前支店 融資課 若松大輔 氏

テーマ：「融資制度と事業承継について」

案件(4) 日本YEG第42回東北ブロック大会青森むつ下北大会について

当日出発時間やタイムスケジュールなどの確認。

案件(5) YEGの日事業について

11月11日にYEGの日に清掃活動を実施したい。例年こみせ通り周辺で実施しているがあまりゴミが落ちていないので場所を変更したい。中野もみじ山付近を予定。

③第55回全国商工会議所女性会連合会新潟全国大会

開催日時 令和5年10月5日(木)～6日(金)

開催場所 朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター

参加者 大溝千秋・端田裕花・李若冰・松村久美子・高橋幸江・神真奈美・山本玉子・
鳴海理香・寺口紀子・事務局

内 容 全国商工会議所女性会連合会新潟全国大会が新潟県新潟市にて開催された。
全国309女性会から約2,300名の女性会会員が集結し、当女性会からは9名が参加した。

1日目はオープニングセレモニーとして新潟清心女子高等学校ダンス部によるダンスが披露された後、長岡造形大学理事長 佐々木順子氏から「変革を促すリーダーシップとDE&I」をテーマとする記念講演をいただいた。

2 日目の全国大会ではオープニングセレモニーとして CHIBI UNITY によるダンスが披露された後、主催者挨拶・来賓挨拶、第 22 回女性起業家大賞授賞式、全国商工会議所女性会連合会表彰授賞式が行われた。

2 日間開催された物産展では新潟県内から計 36 店舗の出店があり、終日大盛況であった。

④日本商工会議所青年部第 4 2 回東北ブロック大会青森むつ下北大会

第 5 回役員会・秋の会長会議

開催日時 令和 5 年 10 月 6 日(金)～7 日(土)

開催場所 下北文化会館

出席者 村上慈人、齊藤工、瓜田健太郎、三上修平、佐川武士、村上照幸、北山一洋、
対馬孝男、山谷 晃、事務局

内 容 (1) 第 5 回役員会
(2) 秋の会長会議
(3) 記念講演
(4) 記念式典
(5) 大懇親会

⑤黒石商工会議所女性会第 6 回役員会

開催日時 令和 5 年 10 月 10 日(火) 午後 7 時 00 分

開催場所 黒石商工会議所「会頭室」

出席者 大溝千秋・端田裕花・李若冰・渋川麗子・木村優美子・野呂英子・岩崎聡子・
高木まり子・石黒きよの・井元タマエ・事務局

新入会員報告 むらかつ 村元真弓

議案審議 案件(1) 第 55 回全国商工会議所女性会連合会新潟全国大会の報告について
案件(2) 十和田商工会議所女性会創立 50 周年記念式典について

今回の参加費は全額会で負担することに決定。また贈呈品は(株)渋川製菓の煎餅に決定。

案件(3) 第 2 回定例会(手話講座)について

むらかつのカツサンドをテイクアウトをし、参加費は 500 円で 1 人あたり会から 200 円補助することに決定。

案件(4) 黒石りんごまつりの準備について

コーヒーは 1 杯 200 円で、300 杯販売予定。またバザーの準備について打ち合わせを行った。

案件(5) フラワーアレンジメント講習会について

12 月 27 日(水)に松の湯交流館にて、13:30～15:00、15:00～16:30 の 2 部制で開催することの決定。

⑥黒石商工会議所女性会第 2 回定例会 (手話講座)

開催日時 令和 5 年 10 月 31 日(火) 午後 6 時 30 分

開催場所 黒石商工会議所「会頭室」

参加者 大溝千秋・端田裕花・李若冰・松村久美子・渋川麗子・木村優美子・斎藤甲・
野呂英子・工藤由美子・高木まり子・佐藤知香・石黒きよの・井元タマエ・
鳴海理香・高橋経子・村元真弓・井手裕子・事務局

内 容 黒石ろうあ協会の小山内裕子さん、手話通訳者の原田和子さんを講師に迎え、簡単な挨拶や日常会話、接客の際に使える手話などを学んだ。自分達では気づけない、聾者ならではの日常生活での大変なことやその反面良かったと思うことを教わり、聾者との向き合い方を学んだ。例題で学んだ手話や表情・ジェスチャーを使いながら手話通訳者に頼らず質問をしてみたり、講師の問いかけに積極的に答えたりする場面が多く、楽しみながらも真剣に手話に取り組んだ。